

日本放送協会会長 松本正之 殿

NHK大河ドラマ「大友宗麟」  
を誘致する要望書

平成24年6月

大分県

# NHK大河ドラマ「大友宗麟」 を誘致する要望書

大友氏は、鎌倉時代は九州御家人の中の有力者として、室町時代は守護大名として、長きにわたり権勢をふるい、少弐氏、島津氏とともに九州を三分する大勢力でありました。

大友義鎮（後の宗麟）は、1530年に大友家第20代当主・大友義鑑の嫡男として豊後国・府内で生まれました。1550年に家督を継ぎ、有能な家臣団にも助けられて、この時期、大友家は飛躍的に勢力を拡大していきます。やがて、領域は豊後、豊前、筑前、筑後、肥前、肥後の北部九州6カ国となり、大友宗麟は九州一の戦国大名として全盛期を迎えました。

また、1551年にはイエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルを山口から招き、キリスト教の布教を許可します。さらに、修道士ルイス・デ・アルメイダによって孤児院や日本初とされる西洋式病院が建てられるなど、府内においては南蛮文化が開花しました。

当時、大友宗麟は、豊後という中央からはるか遠方の地にながら、九州を一つの国として西欧やアジア諸国と交流しました。府内及び臼杵港には中国船やポルトガル船が来航し、「南蛮貿易」が盛んに行われました。府内は、堺や博多と並ぶ国際貿易都市として繁栄しました。

さらに、大友宗麟は書画、茶道、能、蹴鞠などの諸芸にも通じ、狩野松栄や狩野永徳などの中央の文化人を豊後に招いてい

ます。当時、日本の政治、経済、文化面で大きな影響力を持ちました。

今から450年前は、まさに戦乱の世であり、織田信長や豊臣秀吉など、ほとんどの武将が国を統一するために国内の覇権争いをしている時代にあって、大友宗麟だけは天下取りではなく、いち早く国際社会に目を向けた「進取・開明」の人でありました。

昨今の日本は、情報手段の発達や経済のグローバル化により、戦国時代と全く事情は異なりますが、大友宗麟が日本の一地域の大名でありながら、世界に目を向けようとした一連の活動は、私たちが「地域主権改革」や「道州制」といったテーマについて考えるきっかけづくりになるのではないかと思います。

平成23年4月には、大友氏を顕彰する「NPO法人 大友氏顕彰会」が設立され、「大友氏のドラマ化実現」に向け、現在、大友氏フォーラム、大友氏ゆかりの城跡・寺社巡りなど、様々なイベント活動も実施されており、地元においても宗麟をはじめとする大友氏への歴史的関心が高まっています。

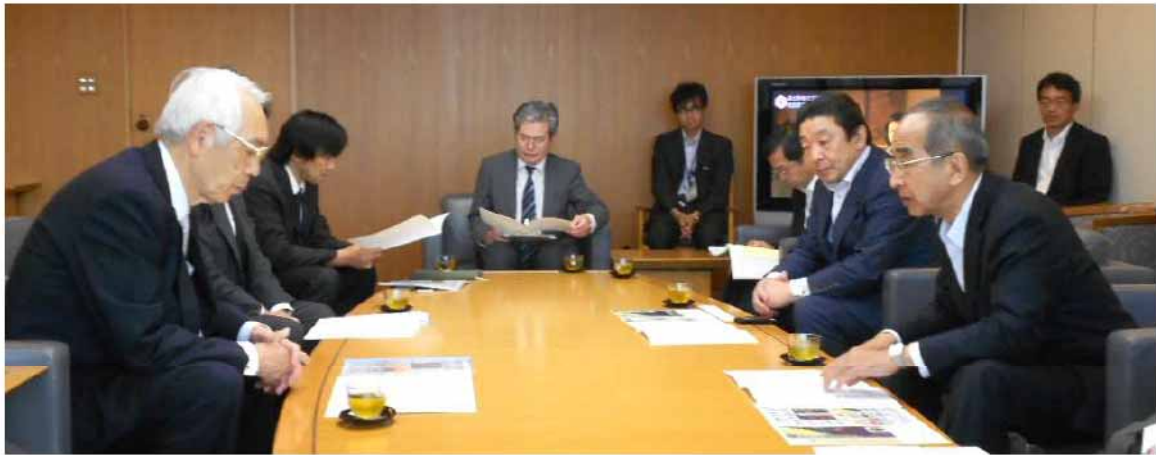
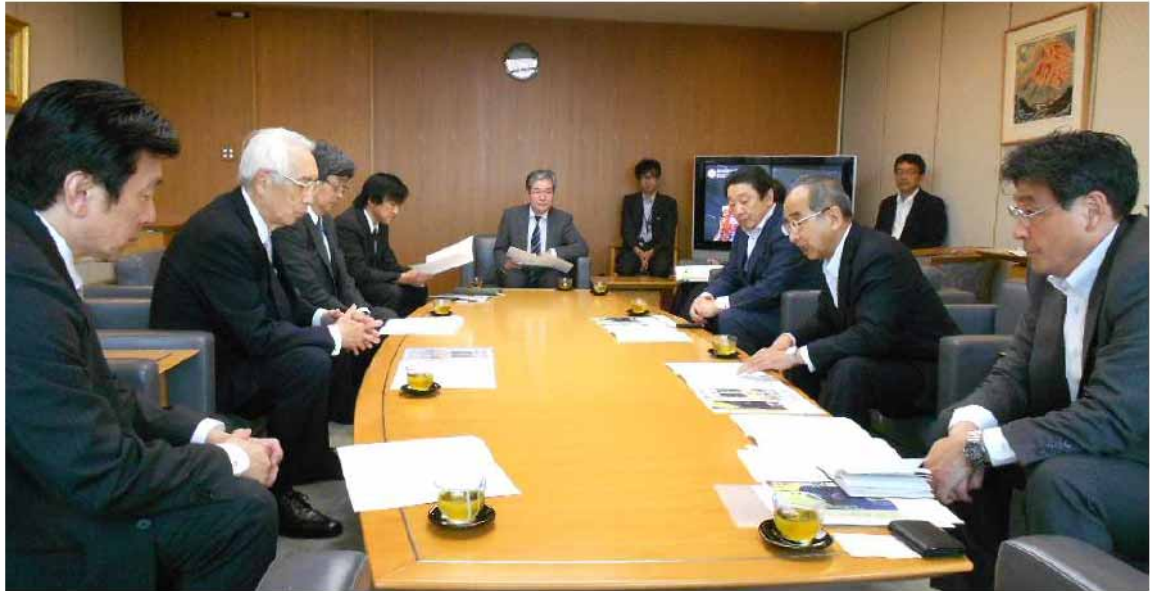
地元では、大友宗麟が全国的に親しまれるような存在となり、大分県の歴史文化の全国への発信、観光振興や地域経済の活性化につながることを強く期待しているところであります。

つきましては、こうした地域の「大河ドラマ」誘致への熱い思いをご理解いただき、ぜひ大友宗麟、大友氏をお取りあげいただきますようよろしくお願いいたします。

6/20大分県知事訪問 出席者一覧

	出席者			備考
日本放送協会	会長		松本 正之	
	理事		新山 賢治	ドラマ担当
	大分放送局	局長	早見 英一	
	制作局第2制作センター	センター長	大加 章雅	

	出席者			備考
大分県	知事		広瀬 勝貞 様	円卓
	県議会議長		志村 学 様	円卓
	【随行者】			
	総務部知事室	主幹	榊谷 康治 様	円卓
	企画振興部	部長	塩川 也寸志 様	円卓
	県議会事務局	事務局長	渡邊 秀一 様	円卓
	企画振興部文化スポーツ振興課	課長補佐	宮本 裕治 様	
	県議会事務局総務課秘書班	課長補佐	橋本 智徳 様	
	県議会事務局総務課秘書班	主幹	清水 豊 様	
東京事務所	所長	西野 智行 様		



【松本NHK会長（左）へ要望する広瀬大分県知事（右）】

